

平成27年度スーパーグローバルハイスクール構想調書の概要

指定期間	ふりがな	がっこうほうじんかんせいがくいん かんせいがくいんせんりこくさいこうとうぶ				②所在都道府県	大阪府	
27～31	①学校名	学校法人関西学院 関西学院千里国際高等部						
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模		
	1年	2年	3年	4年	計	全日制普通科 在籍者数 257名		
普通科	80	91	86		257			
⑥研究開発構想名	高い国際通用性を有するレジリエンスに富むグローバルリーダー育成							
⑦研究開発の概要	<p>本校創立以来展開してきた探究型学習の進化形である「知の探究」「リサーチとフィールドワーク」クラスを新たに設け、「スーパーグローバル大学創成支援」(SGU)に採択された関西学院大学との高大連携、海外フィールドワークなどを通じて課題研究を進め、その成果を研究論文にまとめ発表するプログラムを開発・実践する。さらに、文部科学省委託「国際バカロレアの趣旨を踏まえた教育の推進に関する調査研究」における本校の成果を踏まえつつ、世界水準の学びとして日本語DPによるIBディプロマ及びサーティフィケート取得を中心とした教育プログラムを開発・実践し、高い国際通用性を有するレジリエンスに富むグローバルリーダーを育成する。</p>							
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	(1) 目的・目標						
		<ul style="list-style-type: none"> <li>多様性あふれるグローバル社会において、高い国際通用性を有するレジリエンス(Resilience:他者と協働して粘り強く課題解決に導く力)に富むグローバルリーダーの育成を、本研究開発の目的とする。</li> <li>確かな学力、コミュニケーションの基礎となる言語、情報収集に関するリテラシーに加え、レジリエンスに求められる能力である①自己自身への深い理解②他者との確かなコミュニケーションを築く力③課題・状況を肯定的にとらえ未来を展望する力④課題解決に真摯に取り組む力を身につけ、グローバルリーダーとして活躍できる若者を育成する。</li> </ul>						
		(2) 現状の分析と研究開発の仮説						
		<ul style="list-style-type: none"> <li>国際性豊かで多様性あふれるキャンパスをもつ本校は、英語において大阪府下トップの成績を収めるなど質の高い教育を実践し、また高校1年次に「比較文化(現代社会)」クラスで全員に論文作成を課し、その後の学びの方向性、研究方法を習得させるなどのユニークな探究型学習を展開している。</li> <li>前述の本校独自の特色を進化させ、各個人がグローバルリーダーとして自信をもって自己の独自性を表現する一方、異なった意見・立場をもつ他者との確かなつながりを構築し、協働して粘り強く課題解決に導く力、すなわちレジリエンスの涵養を本校の次代の教育目標とする。</li> </ul>						
		(3) 成果の普及						
		<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒企画による公開成果報告会、関西学院大学をはじめ他の国内外の大学教員との合同研究会、ホームページでの公開などを通じて普及を図る。</li> </ul>						

<p style="text-align: center;">⑧ -2 課題</p>	<p><b>(1) 課題研究内容</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本校生徒全員を「Global Learner」ととらえ、グローバルリーダーをめざす学習プログラム「Global Learner Program」(GLP)を開発・実践する。必修科目「知の探究」「リサーチとフィールドワーク」において各生徒がグローバルな研究課題を設定し、高大連携プログラムや海外フィールドワークなどを踏まえ、課題研究論文を完成する。</li> <li>課題研究の個人テーマは、「統一性と多様性 “Unity in Diversity, Diversity in Unity”」の尊重や多文化共生の考え方を基盤としたアプローチを通じ、「よりよい・より平和な地球社会の建設に貢献する」という総合課題の下、基本的には①より平和な国際社会の建設②よりよい地球環境の創出③よりよい・より平和な異文化間コミュニケーションのあり方の模索の3つの分野から選ぶ</li> </ul> <p><b>(2) 実施方法・検証評価</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1年次に「知の探究」を必修科目として新設し、①知の探究（「知とは何か」「論理的思考トレーニング」「資料評価」「学問領域の違いについての学び」）②「よりよい・より平和な地球社会の建設に貢献する」という総合課題に関するディスカッションを行う。また、関西学院大学教員等によるグローバル研究基礎講義を実施。</li> <li>2・（3）年次に履修する授業「リサーチとフィールドワーク」で、①テーマ別のグループ活動（ディスカッションなど）②フィールドワークの企画または実施③論文作成準備（リサーチクエスチョン・参考文献とアウトライン・ファーストドラフト）。大学教員等によるオムニバス集中講義を開催するほか、海外協定校との研究発表交流プログラム、海外フィールドワークへの参加などを通じ、実践的な経験を踏まえた研究を推進する。</li> <li>（2）・3年次に研究課題論文を完成させる。関西学院大学総合政策学部「リサーチ・フェア」などでの成果発表。日英併記によるアブストラクト集の公刊。最終成果を生徒企画による公開成果報告会において発表する。</li> <li>関西学院大学が進める国際連合等とのプログラムを通じ、グローバルな意思決定過程についての学びを深める。</li> <li>交流協定を締結しているドイツの高校との共同学習を拡大進化させ、新たにカナダ・マウントアリソン大学、オーストラリア国立大学、台湾・東海大学附属実験高級中学等との連携を強化する。</li> <li>フィールドワークとして、NASA-JPL（ジェット推進研究所・アメリカ）、名古屋大学、アジア学院（栃木県）などで、体験的な学習の機会を得る。</li> <li>情報リテラシー委員会が中心となって、情報に関する基礎知識・モラルについての指導体制を整備し、日本語と英語による「SIS Academic Honesty」（校内共通ガイドライン）を策定するとともに、論文作成に係る評価観点・基準など指導・評価方法を確立する。</li> <li>運営指導委員会委員による評価を得るとともに、関西学院大学教員、国際機関、協定校等の関係者との意見交換、本校生徒・教員のアンケートを通じて検証する。</li> </ul> <p><b>(3) 必要となる教育課程の特例等</b> 特になし</p>
<p style="text-align: center;">⑧ -3 上記以外</p>	<p><b>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>より国際通用性の高いグローバルリーダーを「Global Inquirer」とし、その育成のため、日本語 DP による IB ディプロマ及びサーティフィケート取得を含む高度探究プログラム「Global Inquirer Program」(GIP)を開発・実践する。</li> <li>文部科学省委託「国際バカロレアの趣旨を踏まえた教育の推進に関する調査研究」の成果を踏まえ、学習指導要領に沿った日本語 DP の授業展開を行い、その指導・評価方法を確立する。</li> <li>検証評価は上記⑧-2(2)に準ずる。</li> </ul> <p><b>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等</b> 英語による授業実施について教育課程特例校申請を行う。</p> <p><b>(3) グローバルリーダー育成に関する環境整備、教育課程課外の取組内容・実施方法</b> 現在海外4都市を含めて年5回の帰国生入試を行っているが、今後より有効な帰国生入試のあり方を模索し、本校にふさわしい生徒の受入れを図る。</p>
<p style="text-align: center;">⑨ その他 特記事項</p>	<p>特になし</p>

ふりがな	がっこうほうじんかんせいがくいん かんせいがくいんせんりこくさいこうとうぶ	指定期間	27～31
学校名	学校法人関西学院 関西学院千里国際高等部		

## 平成27年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）								
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数								
a	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	60人
	SGH対象生徒以外:		人	30人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 高校生全員に奨励する。								
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数								
b	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	190人
	SGH対象生徒以外:		130人	130人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 1年次から全員に奨励する。								
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合								
c	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	90%
	SGH対象生徒以外:		%	60%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 1年次から全員の意識を高める。								
公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数								
d	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	20人
	SGH対象生徒以外:		1人	1人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 1年次から全員に奨励する。								
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合								
e	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	95%
	SGH対象生徒以外:		80%	80%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 全員がB1に達することを目標として取り組む。								
(その他本構想における取組の達成目標)								
f	SGH対象生徒:							
	SGH対象生徒以外:							
目標設定の考え方:								

1' 指定4年目以降に検証する成果目標

		25年度	26年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	目標値(34年度)
国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合									
a	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	80%
	SGH対象生徒以外:	60%	60%	%	%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 特にGIP生徒は100%を目標として全体を伸ばす。									
海外大学へ進学する生徒の人数									
b	SGH対象生徒:			11人	12人	13人	13人	17人	17人
	SGH対象生徒以外:	人	7人	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 海外大学進学カウンセリングを強化し、特にGIP生徒からの進学を奨励する。									
SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合									
c	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	90%
	SGH対象生徒以外:	-	-	%	%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 1年次から全員に機会を与えることで全体を伸ばす。									
大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数									
d	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	80人
	SGH対象生徒以外:	-	-	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 現在も多数が留学経験を持つが、今後もさらに奨励する。									

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）								
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
a	課題研究に関する国外の研修参加者数							
	人	5人	人	人	人	人	人	40人
	目標設定の考え方: 1年次から全員に奨励する。							
b	課題研究に関する国内の研修参加者数							
	人	20人	人	人	人	人	人	60人
	目標設定の考え方: 1年次から全員に奨励する。							
c	課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数							
	2校	2校	校	校	校	校	校	8校
	目標設定の考え方: 関西学院大学のネットワークを活用し、学校数の増加を図る。							
d	課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)							
	人	2人	人	人	人	人	人	20人
	目標設定の考え方: 関西学院大学のリソースを活用し、人数の増加を図る。							
e	課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)							
	人	1人	人	人	人	人	人	14人
	目標設定の考え方: 関西学院大学のネットワークを活用し、人数の増加を図る。							
f	グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数							
	3人	3人	人	人	人	人	人	10人
	目標設定の考え方: 関西学院大学のネットワークを活用し、人数の増加を図る。							
g	帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)							
		116人	人	人	人	人	人	140人
	目標設定の考え方: 現在半数弱である割合を半数を超えるよう努める。							
h	先進校としての研究発表回数							
	1回	2回	回	回	回	回	回	3回
	目標設定の考え方: 定例的に研究発表会を実施する。							
i	外国語によるホームページの整備状況 ○整備されている △一部整備されている ×整備されていない							
	△	△						○
	目標設定の考え方: 現在も基本的にはバイリンガル構成であるが、完全バイリンガル化をめざす。							
j	(その他本構想における取組の具体的指標)							
	目標設定の考え方:							

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
全校生徒数(人)	233	254					
SGH対象生徒数							
SGH対象外生徒数							